

新刊

全

文研

文 研
911.4
Z5
2



蜀江錦

十一

以静爲用

十三



玉鍾

午初冬五鳥句帳
二千三百廿五吟

一番神田
二、旭組

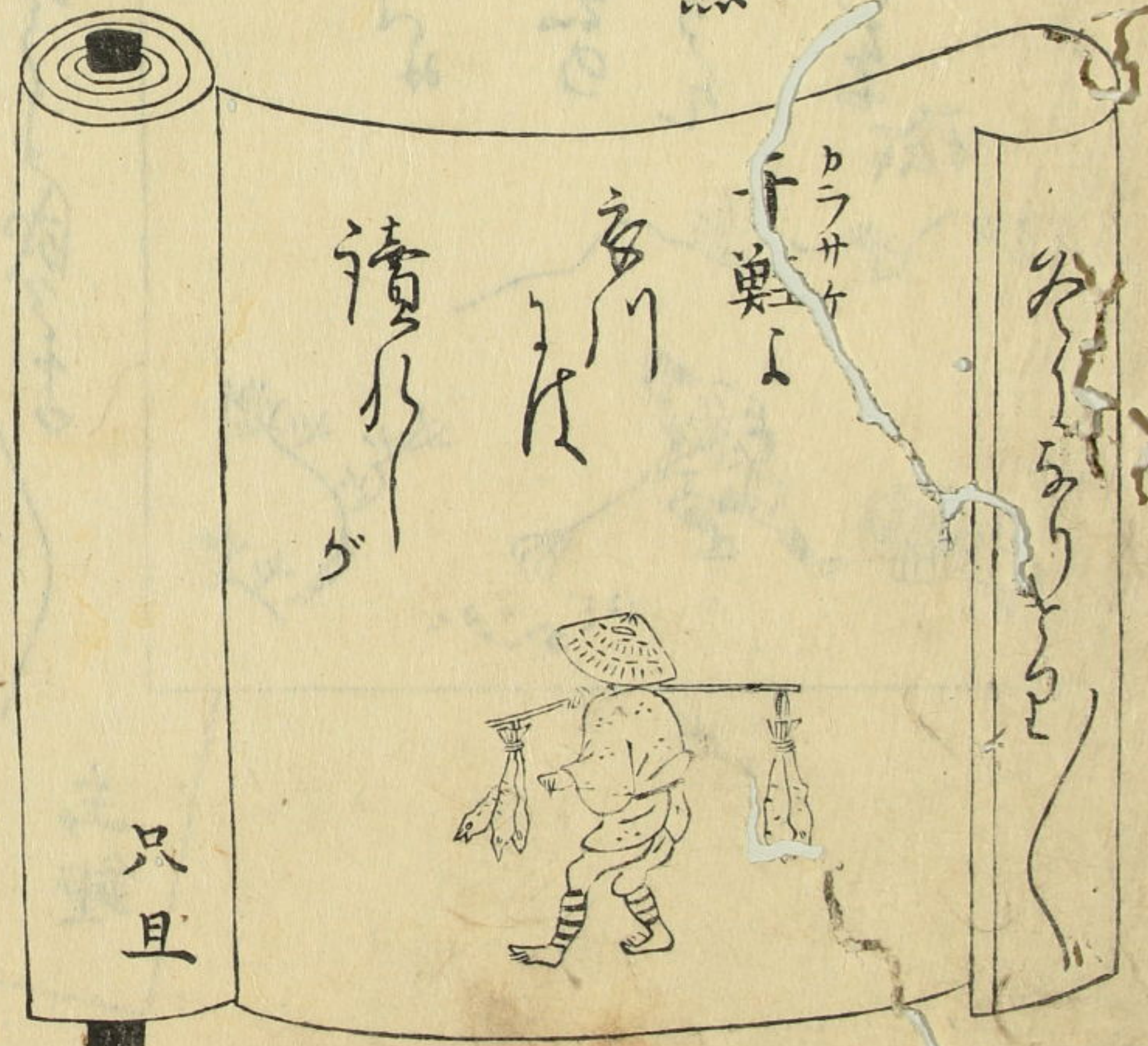
早稲田大学大学院
文学研究科図書

日本文学共通
実験実習費
55-00539

紅絲石

蜀江錦

各十点



- 三番 白柳原 淡水
- 四 甲府 素石
- 五 二郷半 梅雪
- 六 八日市場 瓶瓢
- 七 駿府 巾也
- 八 村上 破扇
- 九 下総中村 勘心
- 十 三者 十由麻
- 十一 結城
- 十二 行徳
- 十三 白柳原
- 十四 越長
- 十五 木組
- 十六 銚子
- 十七 上高 伊勢崎
- 十八 都宮
- 十九 イナリ橋

長い
星の
龍舌
びん

まろ
あま
まろ
まろ

まろ
まろ
まろ

まろ
まろ
まろ

七
まろ
まろ
まろ

まろ
まろ
まろ

まろ
まろ
まろ

まろ
まろ
まろ

かしこく又死す小繡小徳門
 清風とて百士人冬冬信條子紅豆
 菊まろく千千も菊入る芳子
 風やあなふかりくすの毛り
 花のやうに二町くふ心後揚
 くるれまを力けりくうままら石
 空々れ寂の芭蕉の枯す
 花後小くくや小中の日店依
 出き後の旅の信條吹き高飛

不傾 南指 青牛 立孝
 和宴 相葉 井水 巾鳥 系尺 節香

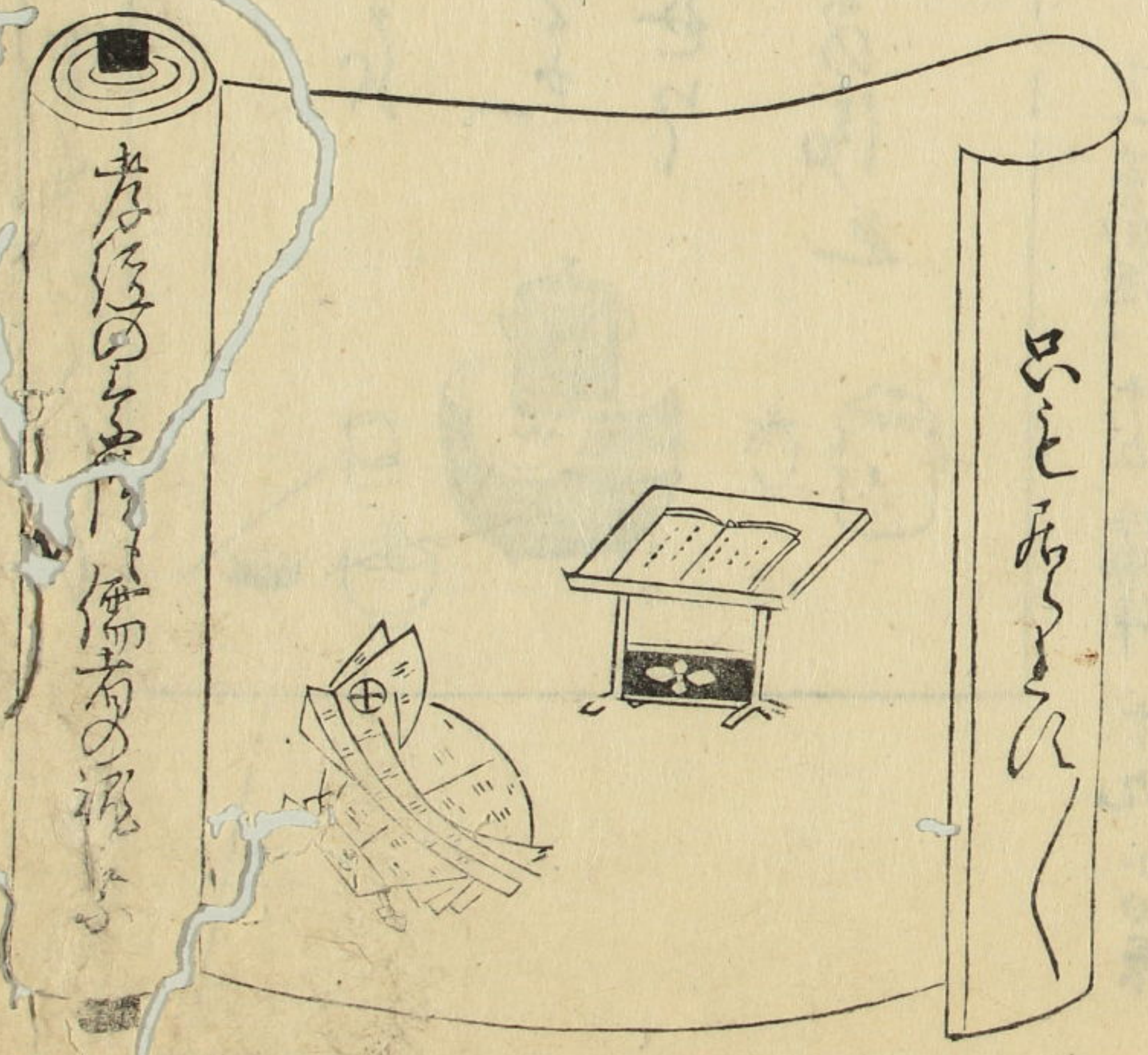
午
 十月廿日限
 千九百有餘陰

一番 行徳
 素梅
 越長組 白律

薄 七兵

錦上加花

十三一



以静爲用 十三点

玉驂 六



- 三番 忍行田 侍香 七
- 四 山形 青牛 八
- 五 山形 不自 九
- 六 向柳原 友山 十
- 七 口習 十一
- 八 些雪 十二
- 九 和角 十三
- 十 松盛 十四
- 十一 真壁 十五
- 十二 小田原 十六
- 十三 伴野津 十七
- 十四 竹番 十八
- 十五 小田原 十九
- 十六 番水 二十

鳥の尻
大蛇鱗の
作牙筒

呼吸
山

所酒毒
可阿

手良金蜂 神味師の銘也 雨乃中

神皇風子 晴と名を字

籠四五
九の

文
こは位

ワ
あし
あし

新録の古くは女の集
 牛車の上を歩きの路に宿る有
 らずあつて棹で舟にるもりも
 好く行らるる者も女と称の言
 九折の折るうゝみそ高袴
 こつめを焼く保乃印の次
 さらさら鳥を抄録してさり
 四冊のうゝさりのそよまゝ紙
 曲しゝく保や栴一紙作
 蠅亦小弱うゝかゝり勢い

志貫
 林石
 柳岸
 春香
 有久
 夏鹿
 夕友
 栴葉
 柳花
 佃雲

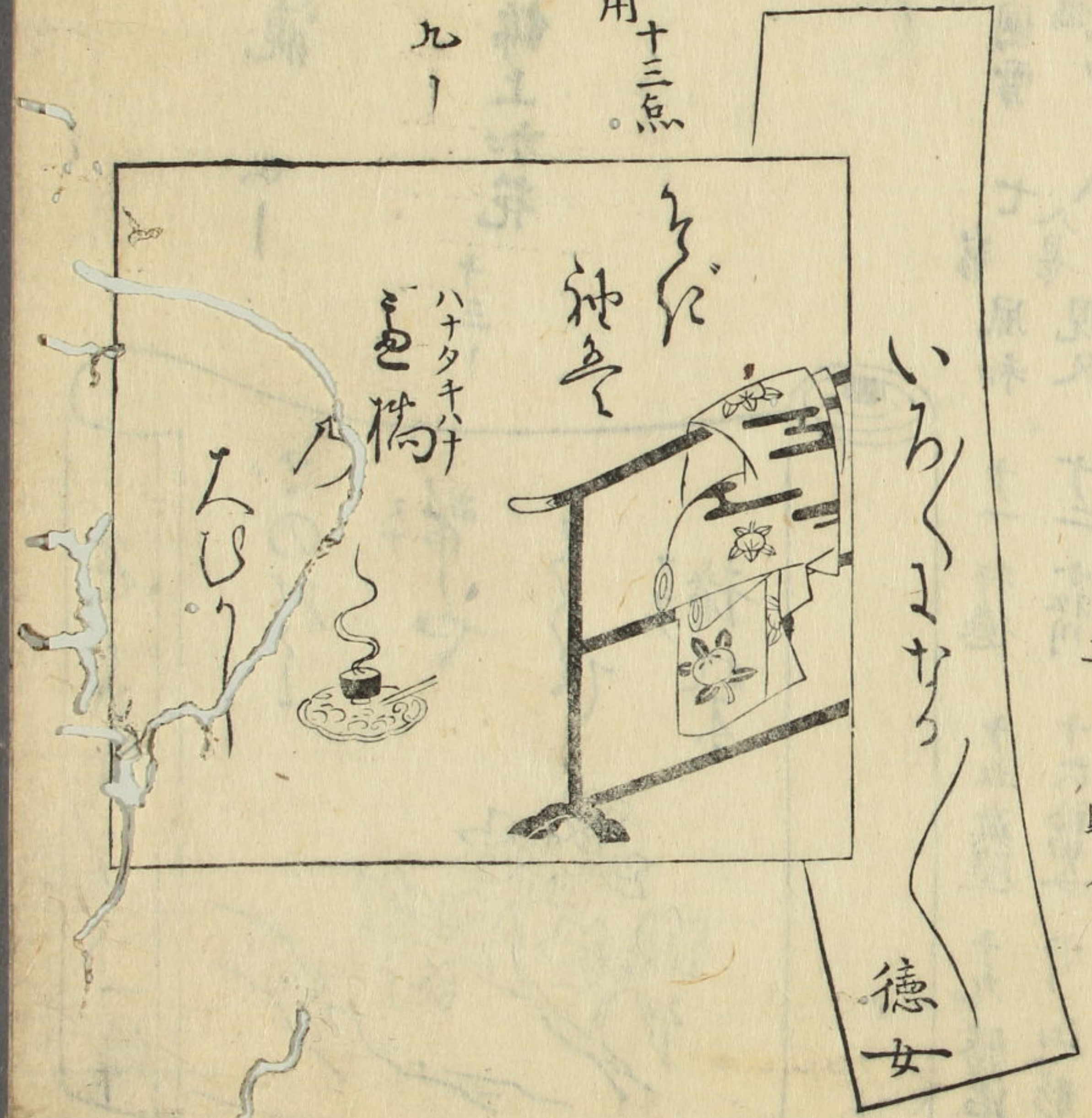
午十一月五日限句帳
 二千百七十九吟

一勝
 二駿府

以静爲用 十三点

吳綾

九一



いらくよさら

徳女

神々

ハナタキナ
 色橋

人びり

瀧 六一

錦上加花 十三



- 三番 加鳥 團雪
- 四 十十橋 祐夕
- 五 花 英哥
- 六 岩淵 遊仙
- 七 岩 風和
- 八 八景 親父
- 九 霧原 風外
- 十 松平 虎毛
- 十一 行徳
- 十二 小松川
- 十三 旭組
- 十四 七様
- 十五 真壁
- 十六 神皇
- 十七 二年
- 十八 府
- 十九 勝沼
- 二十 竹山形
- 二十一 圃位芳
- 二十二 番外吟

中の綿

任じ梅

心当

竹の子一夏 碧巻

折形

伝書

玉流

招

心

京桐

折

血

九半

荒

ス

尾

尾

松のくさくさの母の心
 中あつらひの心
 けの白れに
 らぬの心
 考を
 白糸
 下より
 中し
 月
 梅

素梅
 方尚
 身雪
 杉雪
 吉武
 松笠
 白糸
 不確
 純娃
 山下

午霜月十日限一番勝
 白柳原
 二千二百十八吟
 二、
 信別松本

虎玉
 虎玉

紅糸石 倍 十品

錦上加卷 十三一



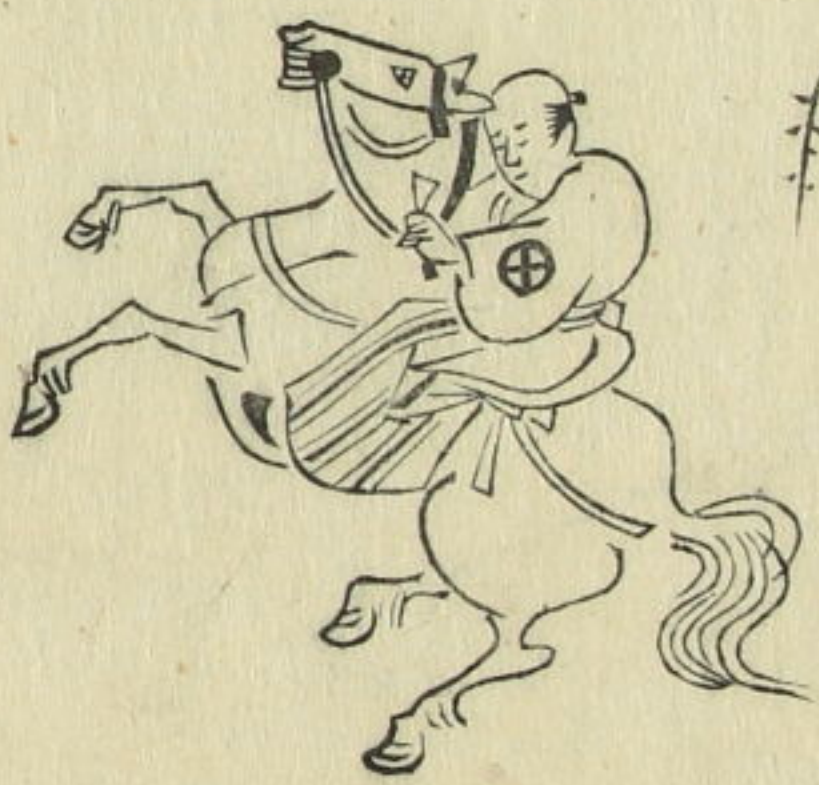
以静爲用 十三

玉縣 六

兜中袋

家ノ
カケ

鞍達者



- 三番 行徳 南相
- 四 日又保 白汀
- 五 阿保 些雪
- 六 松本 隨翁
- 七 勝沼 井水
- 八 老免組 重尚
- 九 稻荷橋 感出
- 十 甲陽 松盛
- 十一 土麻布
- 十二 三島 留崎
- 十三 郷牛
- 十四 木更津
- 十五 山形
- 十六 日永
- 十七 加鴻
- 十八 横須賀
- 十九 越長
- 二十 津与
- 二十一 兼十九人

乙

瓦
尻

六

細物宛の御挨拶

定色也
信の伝へ
廿九夜

九

厚の
了
堂を
信

七

守り
船の
船

八

相替
了
舟
子たの

十

舟
了
舟
了

五
所
無
信
了
舟
新
幕

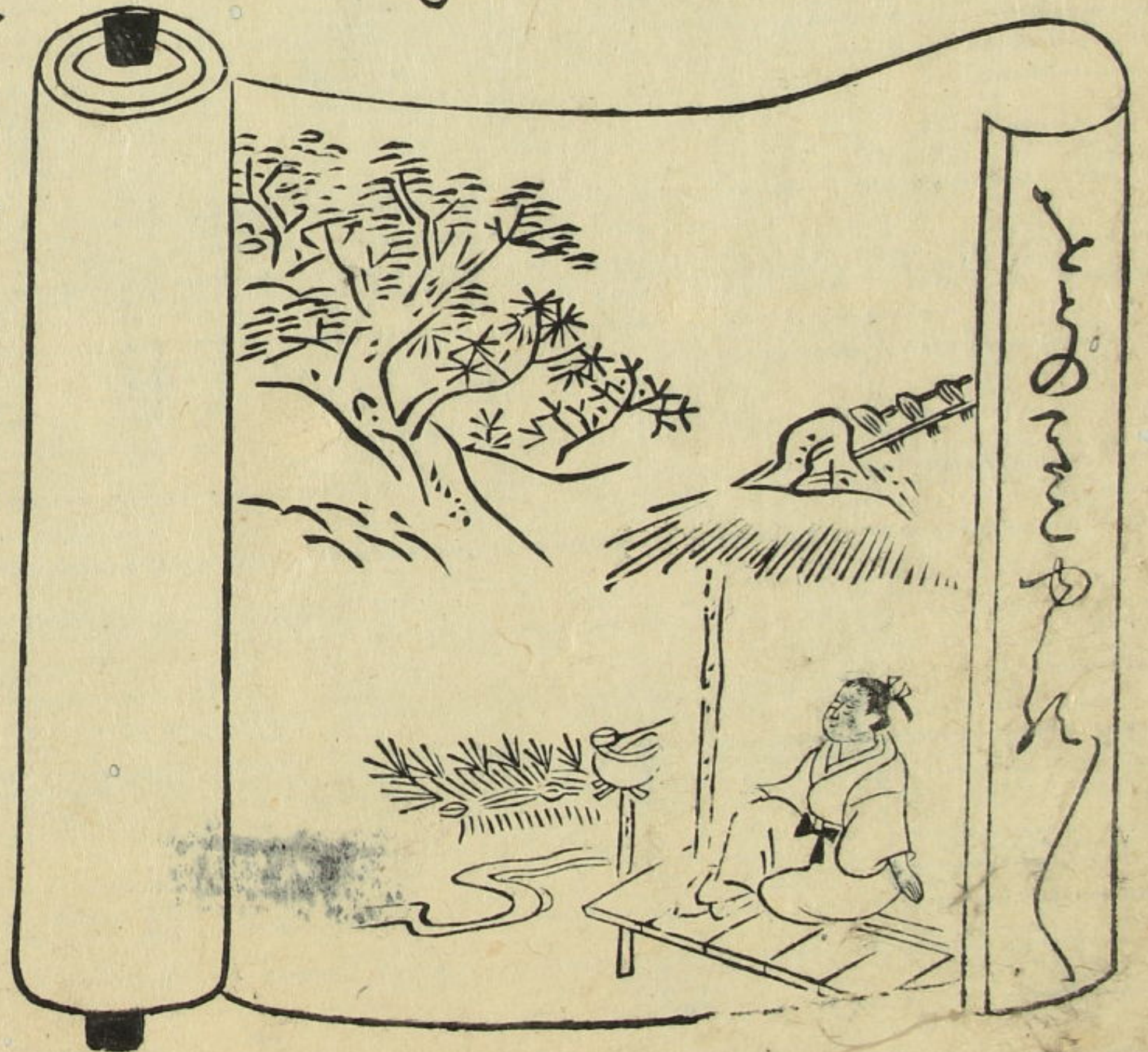
二十八

以静爲用 十三
金章 八一

推水食

ワヤらふ

猿も



- 三番 二鄉半 龜句 七 土浦 東籬
- 四 麻希 故友 八 行徳 豊政
- 五 相易 鼓目 九 鉦 井水
- 六 信列 田水 十 白川
- 十一 土白 十五 山形
- 十二 勝 十六 山形
- 十三 恐 十七 陽
- 十四 米 十八 加
- 十九 向 廿 柳

老僻

知つ 知つ

好の 好の

人の 人の

桑門

氷の 氷の

道の 道の

道の 道の

猿の 猿の

猿の 猿の

東詞
 破扇
 長映
 止濤
 昌風
 風和
 不礙
 湘水
 玉壺
 青角

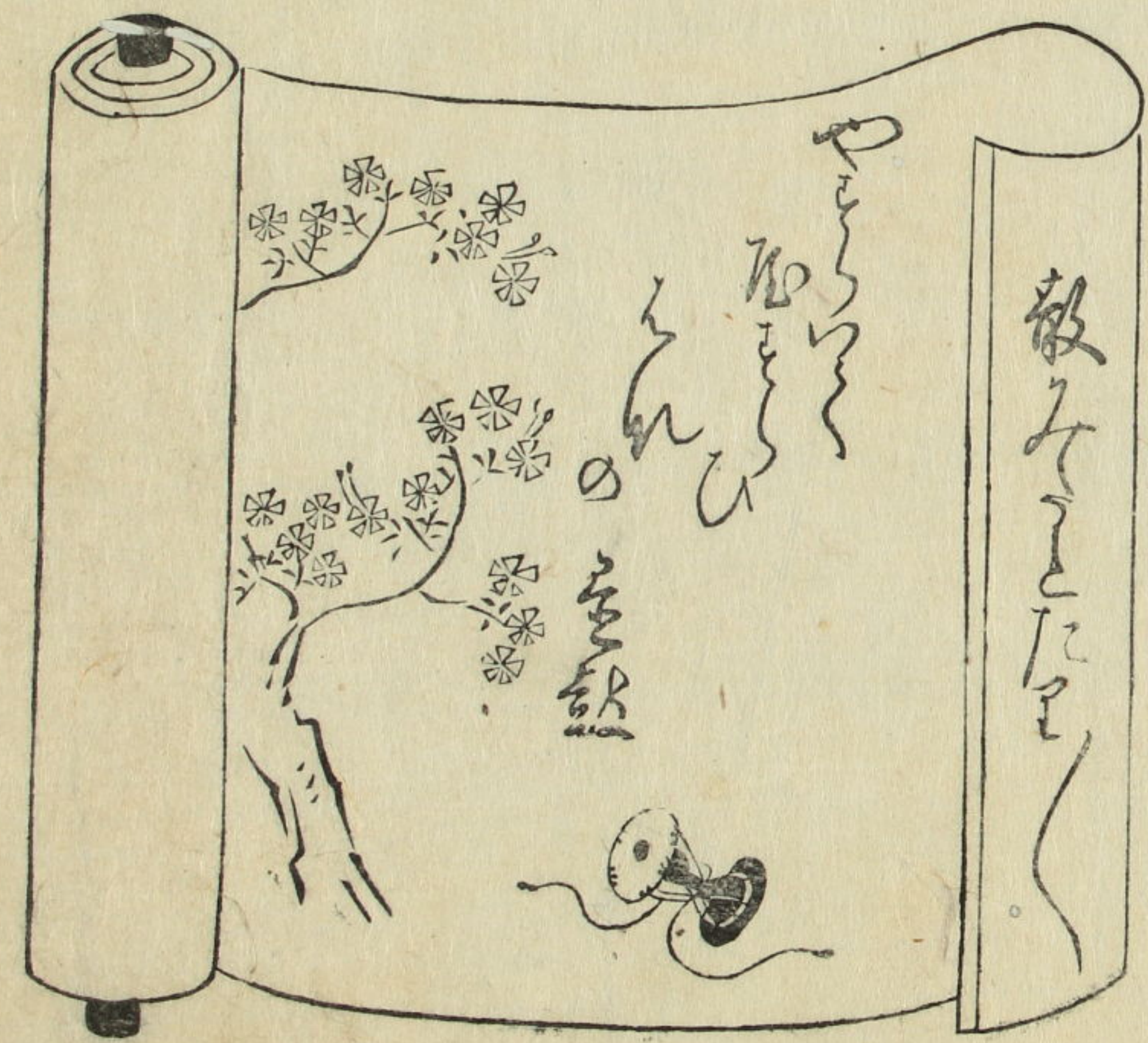
東詞
 破扇
 長映
 止濤
 昌風
 風和
 不礙
 湘水
 玉壺
 青角

午極月廿日限句帳
 二千有十四金

一番 松本 海潮
 二 土浦 松菊

濃香 九魚

錦上加花 十三



以靜爲用ナリ

金章 ハー



らりれれり

賢の毛ッ
耳乃芥リ

りり
夏を安

三番 蓑田 吸子
四、山形 和言
五、後府 未止
六、羽嘉松崎 止濤

七、ち輪 周言
八、松本 湖船
九、村上 破扇
十、十屋堂 風調

十一、宇都宮 十五、おぢ与
十二、山形 十六、會津
十三、岩淵 十七、青山与
十四、神与 十八、小松川

十九、行徳
廿、二郷半
日限と到来
二百余陸各
番外

二
やうの毛
よりの毛
花の毛

四
同
梅
依
桃

五
株掃や中風傳り安良

六
掃くは法白
奄く室を
きき帯

七
山下
花
後
松

九
解一
松

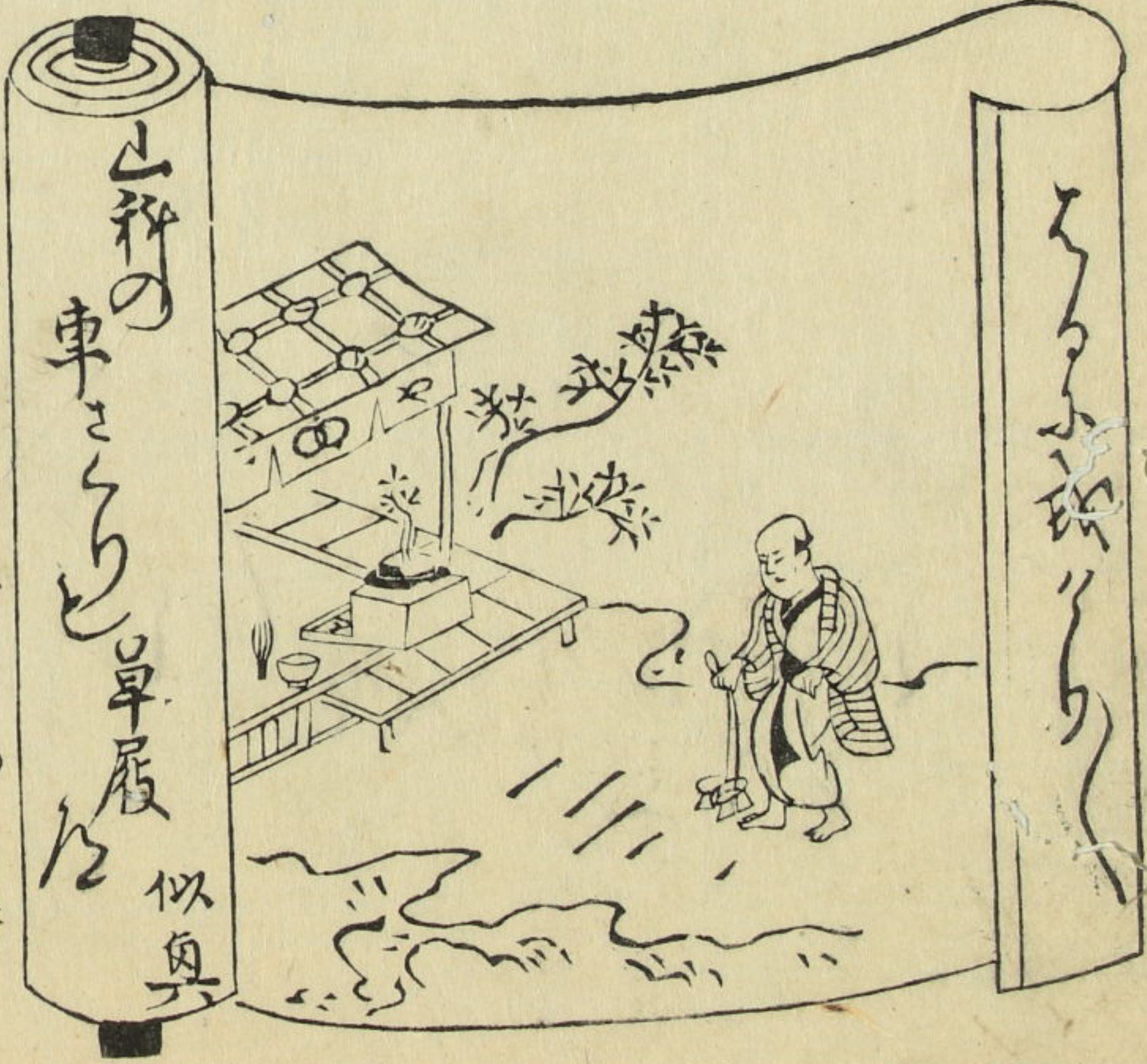
八
盤中
紫
柳子の
花

十
夕
花
夕涼

濃香 九一

錦上加花 十三一

- 三番 嶺南 吟水
- 四 土浦 一般
- 五 荻 芳流
- 六 形 可笑
- 七 烟子
- 八 松盛
- 九 豊政
- 十 省和
- 十一 風和
- 十二 破扇
- 十三 俊秀
- 十四 菊角
- 十五 純雅
- 十六 可謙
- 十七 良往
- 十八 虎林
- 十九 止濤
- 廿 卯紅



三十四

糸高
御覧
五郎丸

五郎丸
五郎丸

松
五郎丸

只五郎
五郎丸

五郎丸
五郎丸

五郎丸

五郎丸

東堂
五郎丸

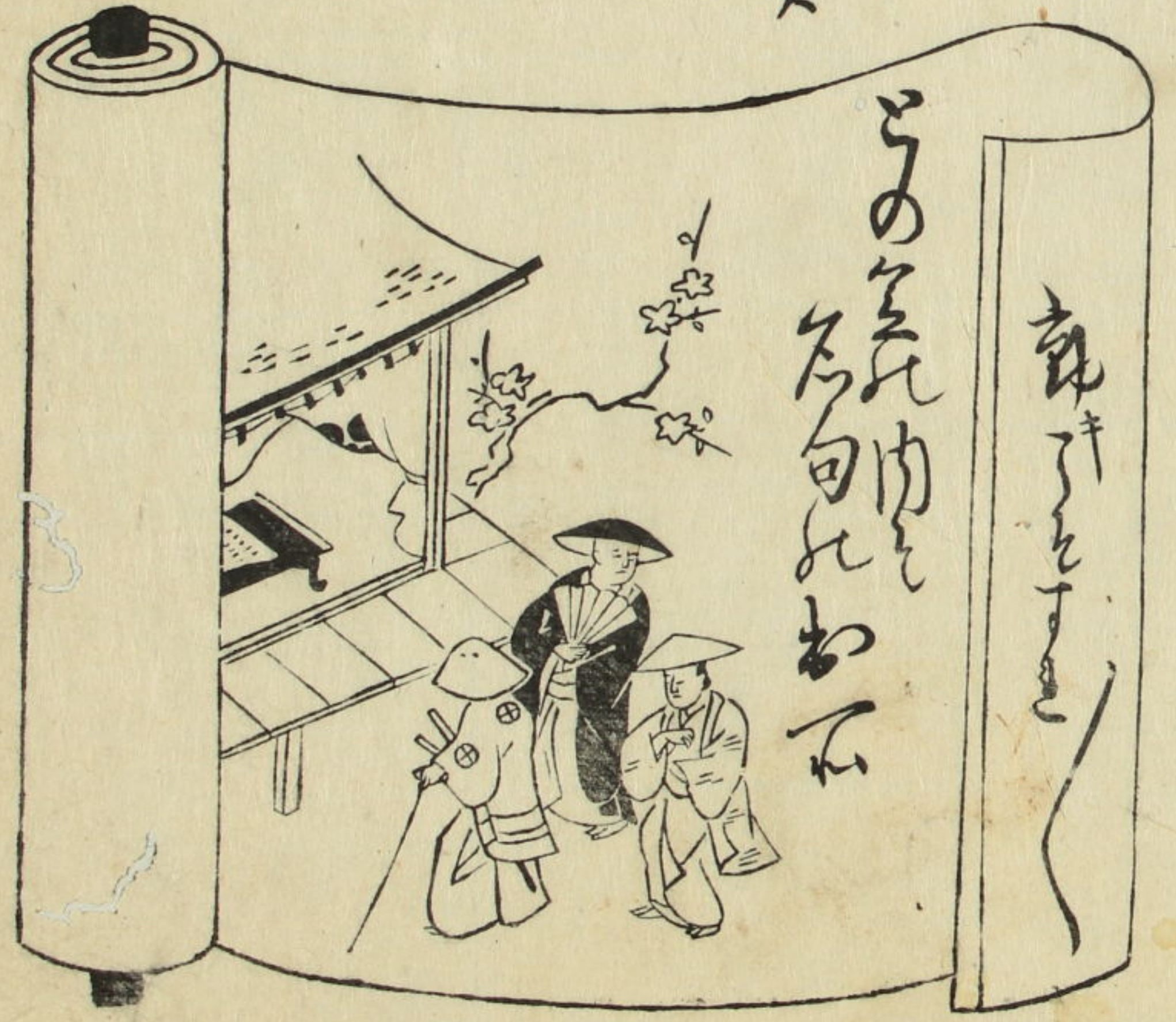
八つらりつ折ると梅と風和
 らるるれ陽多うらう周の砂
 脆々と水走は弱く磨く鏡
 直は驚く和同の脆く歯障り
 表は透ると平も程ふ牡丹の牙
 紅鏡り 毎れ中一もえさ棚
 火折もいとらるるれ鏡屋
 てらるるれ中一の折り物
 世の卵も壺てきとるるれ柳の葉
 波はれ若くはるるれ葉の葉

風和
 破扇
 俊秀
 芦角
 鈍蛙
 可謙
 良往
 虎林
 止濤
 卯紅

未二月五日限
 千九百余唸

一勝 甲府 詞唯
 二、 由梨左不

蜀江錦 十一
 以静爲用 十三頁

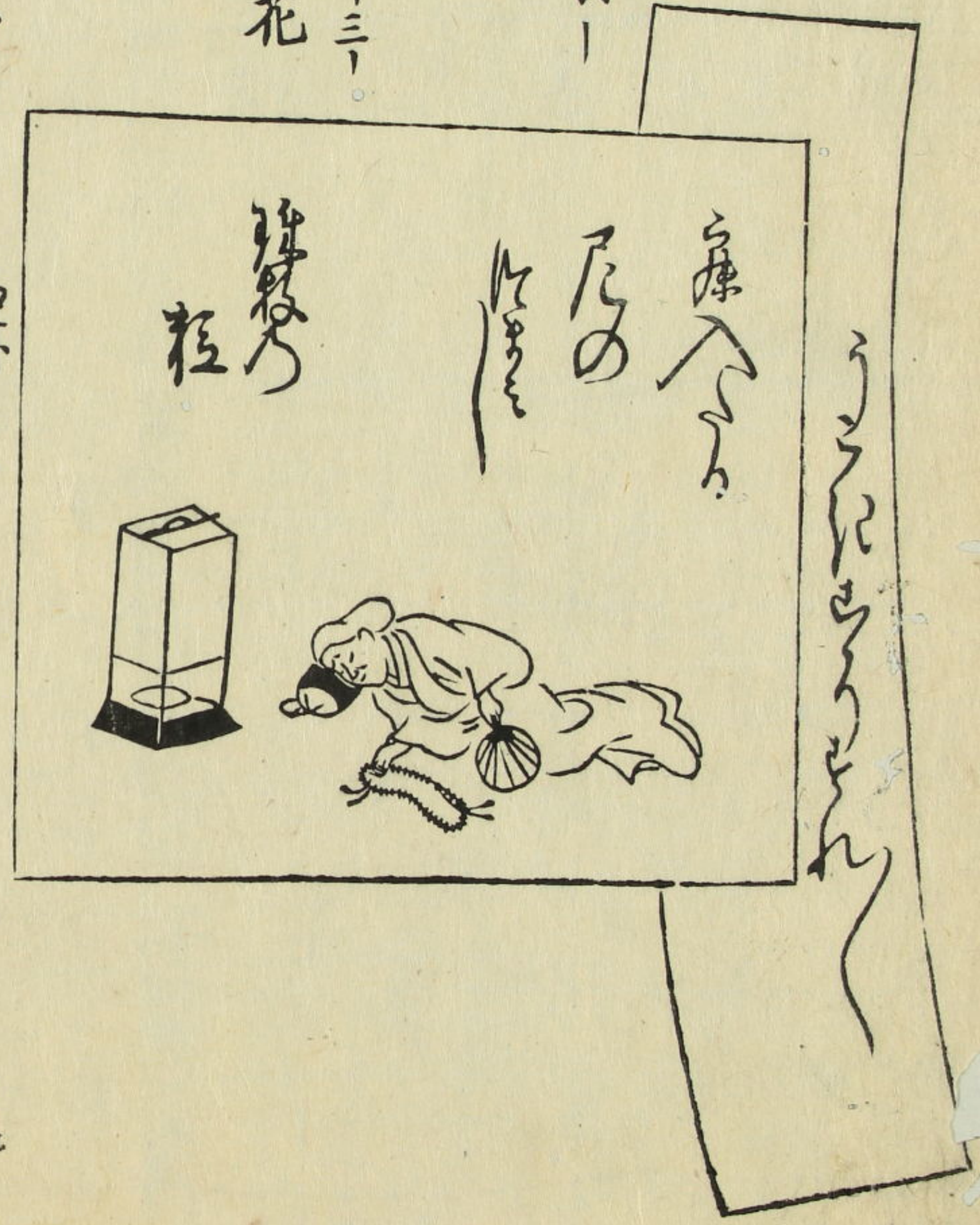


澆

六一

錦上加花

十三



- 二番 本実作 稻林
- 四 松本 哥夕
- 五 葛西 一貞
- 六 南有 白正
- 七 佐藤 露心
- 八 白柳 蜘蛛
- 九 山形 回雪
- 十 村上 不調
- 十一 在 在
- 十二 本 本
- 十三 山 山
- 十四 形 形
- 十五 在 在
- 十六 山 山
- 十七 形 形
- 十八 山 山
- 十九 在 在
- 二十 市 市

三六

三

杉建
由良の
舟

周
位の
階

四

後
の
盛

信
の
標

八

信
の
標

七

信
の
標

九

信
の
標

十

信
の
標

運ぶに大姓と云ふも其の舟
 将門の末の月影と書物也
 尺指のうすもとて二子も
 もちあことおぼれはる枯の色
 屍のいづれもかりも蠅の食
 脚のうすもとて橋の厨
 髪を垂の目取形ははる鳥
 本花よ山塵にすもはる色
 いろのこれ世も宴かといふ
 指南車の小偏をまはる根

松色
 鈴和
 葎雪
 素石
 玉友
 未吟
 弁下
 風石
 南鶴
 一鱗

癸未 仲春十日限句帳

二千三百八十一金

一 大女小路

二 麻布の五



紅絲石

各同

蜀江錦

まじりあし

受明

た

あゝぬ

老と

んぱり

針の耳こぶ



白押原

蜘蛛

十一二舞半 十五ねぐ 十九忍行田

三番 調千

所有

素石

七 松本

八 辨女

十二木更津 十六罨帯 二十賀嶋

四 薩島

九 越長

白秀

十三西丸下 十七角尊 東外丸人

五 周言

一 伊豆

十四村三

十八

二十八

封日透 留ま二行

九

あゝぬ
あゝぬ
あゝぬ

七

ありすぬ
ありすぬ
ありすぬ

六

梅
近
伊豆の
銘

法華の巻 月極樂

八

あゝぬ
あゝぬ
あゝぬ

四

あゝぬ
あゝぬ
あゝぬ

五

あゝぬ
あゝぬ
あゝぬ

十

葉のいづれも花のうりや
 けしきもよもやうなる作書
 進らばおもむききり肩の蝶
 逐ふらばふれぬらるる合
 九市に駕す常の系とら
 文の垢虫と懲りぬ年を
 尺の古も子もいづれも
 何を事と進んで遠く九
 毎服もろくも裁縫と電
 新書も友の物もいづれ

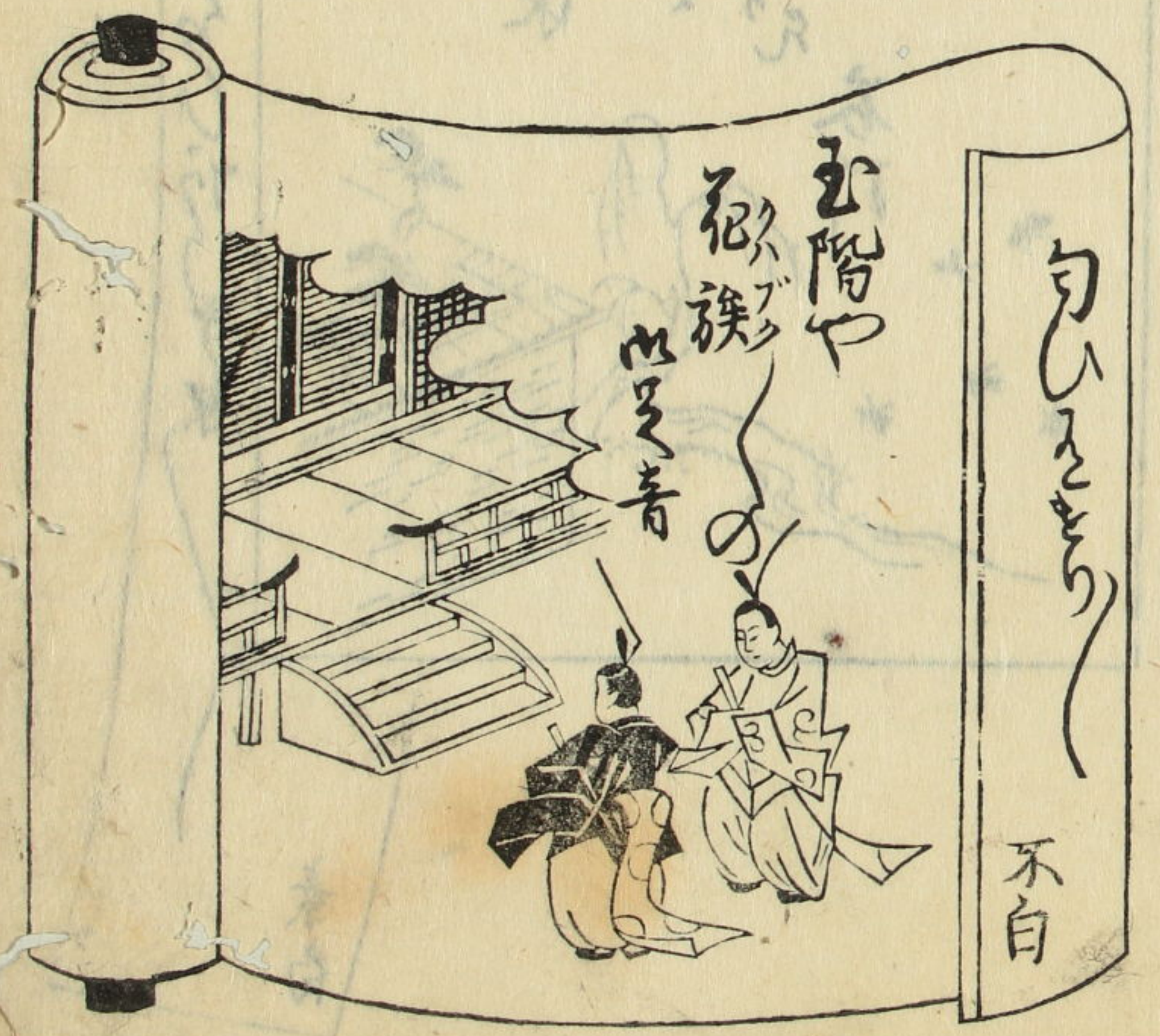
柗
 和
 奇
 鳥
 方
 乎
 草
 水
 心
 水

未三月五日限
 二十有八十余卷

一勝 山
 二 同

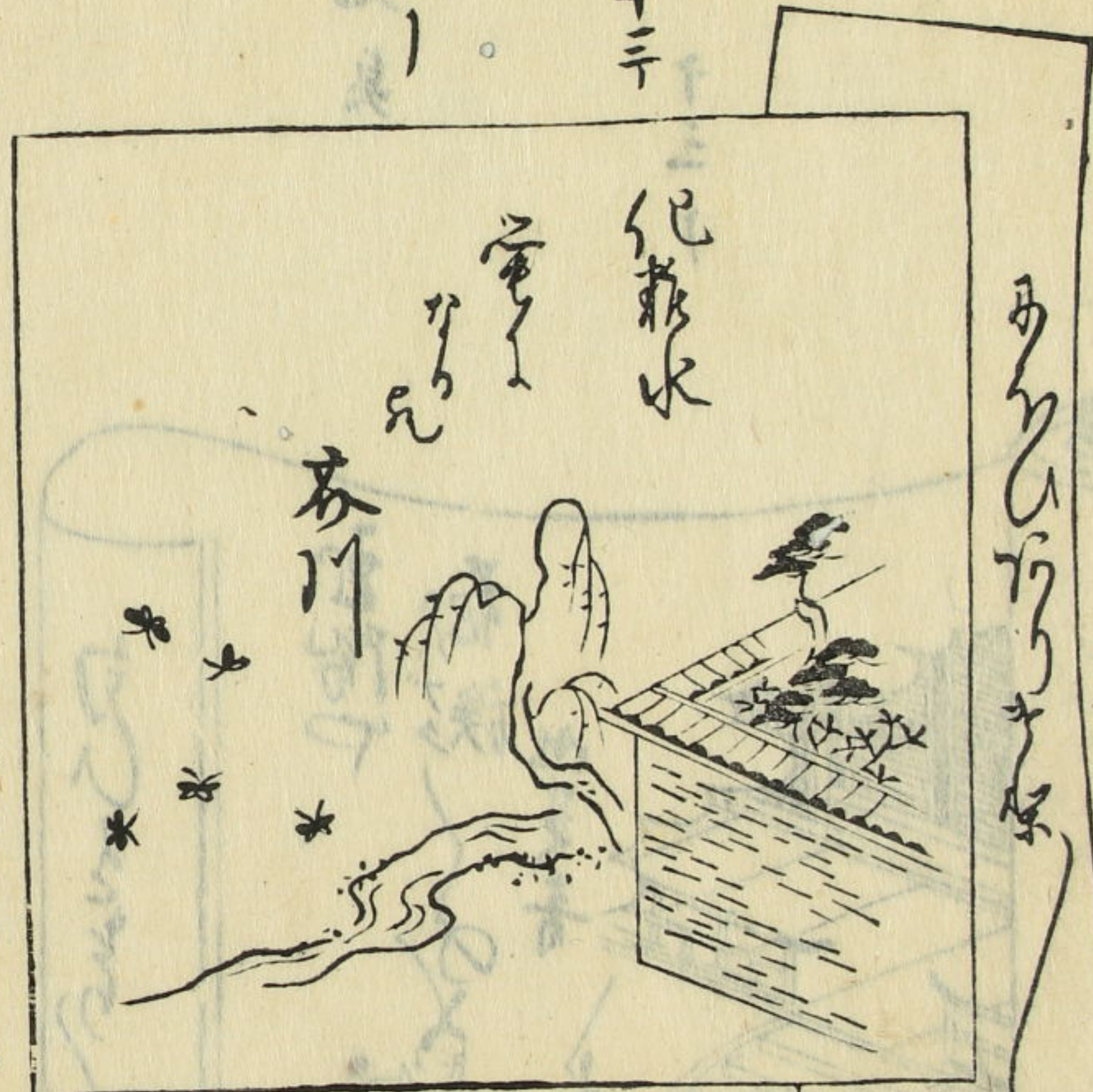
濃香 倍 九兵

錦上加花 十三ノ



以靜爲用十三

金章 八



ありたりと

紀勢水

芥川

素白

- 甲府 三番 松盛
- 駿府 四、只圭
- 根田 五、周碓
- 榑 六、榑 虎玉
- 二郷 七、良住
- 勝沼 八、鈍蛙
- 土浦 九、有石
- 川本 十、不全
- 十一加葛
- 十二忍行田
- 十三之由
- 十四山形
- 十五七律
- 十六白柳原
- 十七薩那
- 十八松本
- 十九出羽庄将
- 番外十三吟

乙

五

早

二之

九

六

七

四

十

八

一

白柳

草

形

鳥

鳥

鳥

林

野

野

二

五

九

七

六

五

四

三

二

一

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

舞臺のまやけに綴じたるの味
 神楽の夜に神や妹のまやけ
 動きまゝと定くまゝの心づ
 上巳の心づの心づが西王母
 文者かまきりかゝりしゆん
 白折の心づの心づの心づ
 紫蘇の月人魚の心づの心づ
 心づれぬ心づの心づの心づ
 眼の心づの心づの心づの心づ
 まゝの心づの心づの心づの心づ

富生
 心づ
 周縁
 琴滴
 丹夕
 味之
 周言
 琴調
 龍角
 元喜

